



スオスダイ！ (こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。

2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいを頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。ただ、CBUからの生活支援はありませんので、日本の教会や個人の方と祈りでつながり、具体的な支援の中で宣教活動を続けられるように願い、祈っています。

近況報告

皆さま、いつもお祈りとご支援ありがとうございます。カンボジアの正月、クメール正月を迎える4月は、カンボジアで一番暑い時期です。連日厳しい暑さが続いており、エアコンを使う頻度が自然と上がります。また、約半年続いた乾季も終わりを迎え、午後にスコールが来る雨季がやってきました。集中的なスコールの後の夕方は、厳しい暑さが少し和らぎ、つかの間の涼しさが訪れます。以下、主に3月と4月の出来事をお伝えいたします。



リーダーカードのスタンプがいっぱいになり、ごほうびの賞品をもらった子どもたち



完成した工作を手にも、みんなで集合写真

母の日に、心をこめて

カンボジアでは、「母の日」のことを「母の恩の日」と呼びます。両親の恩を忘れず、感謝をもって大切にすることが、文化として深く根付いています。5月11日の母の日、日曜学校では、子どもたちが手作りのプレゼントに取り組みました。4枚のハート型の花びらを組み合わせ、紙でできたお花です。花びらには「お母さん、ありがとう」「お母さんだいすき」の言葉を添えられています。

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

詩編 116：8-9

「この色、お母さんが好きなんだよ」

「うまく切れたよ、見て！」

「お母さん喜ぶだろうな」

子どもたちの口からは、自然とお母さんのことを思う言葉がこぼれます。うまくハサミが使えない子には、ユースのお兄さんがそっと寄り添い、手伝ってくれました。その助け合いの姿にも、誰かを大切に思う心が感じられました。



ハサミを使い、集中して作業する子どもたち

この日の暗唱聖句は、「あなたの父と母を敬いなさい」（出エジプト記20章12節）。子どもたちはこの御言葉を口にしながら、それぞれの心の中で、お母さんへの「ありがとう」を形にしていたようです。言葉にしなくても、しっかりと伝わる想いがあります。小さな手で作ったお花にこめられた感謝が、それぞれのお母さんの心に届きますように。



ハサミがまだ使えない子どものためにユースがサポートしてくれました。

子どもリーダーの変化 (ダーネットさん)

彼女、ダーネットさんは2年半くらい前に初めて教会に来ました。しかし、その後すぐに彼女は、教会に来なくなってしまいました。5人兄妹の彼女には、下に3人の妹と弟がいます。日曜日、仕事に出ている母親に代わって、下の幼い兄弟たちの面倒を見なくてはならなかったのです。以前、しばらく教会に来ていない彼女の家を、訪問したことがありました。名前を呼ぶと、ドアを開けて顔を見せてくれたのですが、すぐに家の中に入ってしまった。



ダーネットさんの家を訪問
彼女は、すぐに家の中に入ってしまった。



弟妹を連れて教会へ（右から二番目ダーネットさん）

彼女が、始めて教会でイエス様を知った時から、神様は、ひと時も彼女の傍から離れず、絶えず共にいて下さったことを改めて実感し感謝しています。

先日、ダーネットさんの「リーダーカード」は、スタンプでいっぱいになっていました。彼女のグループは、礼拝の中で表彰されました。

神様の愛と憐れみによって、ダーネットさんを始め他の子どもリーダーたちも日々変えられています。神様に感謝いたします。

それから約1年が経ち、彼女は再び、弟と妹たちを連れて、教会に来るようになりました。幼い妹を膝に抱きながら賛美歌を歌い、弟妹に目配りしながら御言葉を聴く時間が続きました。そして今、彼女は子どもリーダーの一人です。暗かった彼女の表情は、明るさを取り戻しました。



子どもリーダーとなったダーネットさん（右）
表情が明るくなりました。

日曜学校 暗唱聖句に励む子どもたち

日曜学校では、毎回御言葉の学びとして、暗唱聖句の時間を作っています。子どもの手のひらほどの聖句カードを、数枚用意して好きな御言葉を覚えます。また礼拝の中で、暗唱聖句を発表する時を設けました。

最近では礼拝中に、次から次へと子どもたちがステージに上がり、暗唱聖句を発表しています。中には、1人で5つも6つも御言葉を覚えて発表する子もいました。



暗唱聖句を発表する子どもたち

現在、子どもたちには、ヨハネ3章16節の暗唱聖句に取り組んでもらっています。

「神はその独り子をお与えになったほどに、この世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びることなく、永遠の命が与えられるためである。」

み言葉を一つでも多く心に蓄えて、子どもたちの信仰が更に養われていくことを願い祈っています。



ハート型の暗唱聖句カード（ヨハネ3章16節）



バッグのデザインについて話し合う
ケマさんと（中央）スレイモムさん（右）

今年1月から試作を開始し、ここまで数個の試作品を作ってきました。トライ&エラーをくりかえし、商品のイメージが完成しました。クロスボディバックとショルダーバック（肩掛けハンドバック）の2種類です。4月に新商品の「マクラメバッグ」が、クリスチャン運営のカフェの店内に展示されました。一人でも多くの方々に手にとってもらえるように、そして支援の輪が広がりますように、どうぞお祈りください。

「希望の糸」新商品開発

これまで、多くの方に「希望の糸」の商品、マクラメプラントハンガーを購入していただきました。ご支援いただいた方々に心より感謝いたします。また、昨年ある購入者から「プラントハンガーもいいけど、実用的なマクラメ商品も欲しい」という声を頂きました。それを受けて、ケマさんとスレイモムさんと相談し、新たにマクラメのバックシリーズをラインアップすることが決まりました。



完成したマクラメショルダーバッグ
クリスチャン運営のカフェで販売開始

「希望の糸」 Instagram開設

4月、「希望の糸」のInstagramを開設しました。主にリール動画（スマートフォン用の短い宣伝動画）を用いて、希望の糸とマクラメ商品の魅力、作られた背景などを伝えています。まだ始まったばかりですが、閲覧してくださる方は少しずつ増えています。Instagramを通して、更に多くの人々にマクラメの魅力を知って頂き、特に日本で「希望の糸」が広がっていくことを心から祈り願っています。



来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内の「ホープインターナショナルスクール」に通っています。来主は高校1年、栄主は中学1年生クラスに所属しています。

来主は3月下旬、東南アジア各国のミッションスクールが参加する国際スポーツ大会に、ホープスクール代表の一人として参加しました。バスケットボール、サッカー、バレーボールの3つのスポーツを競います。初めて訪れた台湾の地で、毎日違うスポーツを行うハードスケジュールの中、チームメートと共にとっても充実した時を過ごしました。



ホープスクール代表として大会に参加した高校生たち
(下段、一番左が来主)



卒業式を終え、校舎の前で記念写真

栄主は3月中旬に、日本語補習校の卒業式を迎えました。補習校とは、普段インター校に通っている生徒たちが、日本語の授業や文化を学べる学校で、週1回、土曜日のみ授業があります。

来主は4年前に既に小学部を卒業しています。そして今回、栄主が小学部の卒業を迎えることになりました。幼稚部から8年以上にわたって学んだ補習校を卒業することになり、親子共に感慨深いひと時となりました。ここまで学びが守られてきたことに心から感謝します。

日本一時帰国

来月、6月6日から8月4日までの約2か月間、昨年に続き日本に一時帰国します。主日を中心に教会やミッションスクールを訪問し、カンボジアでの祝福と恵みを分かち合います。祈りと支援のネットワークを広げることが目的です。

日本滞在中の主日の教会訪問予定は既に決まっていますが、平日の祈り会などで、報告や証しの機会を頂ければ、ぜひ伺いたいと思っております。メールでご連絡いただければ幸いです。



昨年夏の宣教報告会の様子(名古屋バプテスト教会)
今年も、カンボジアの恵みを各地で分かち合います。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
2. キリングフィールド近くの集落と教会付近の地域が、福音によって変えられるように。
3. カンボジア女性支援活動「希望の糸」の製品の購入を通して、支援が広がっていくように。
4. 宣教活動と生活、子どもたちの学費などの経済的必要が、全て満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫 (CBU宣教師)、来主 (くろす、16歳)、栄主 (えいす、13歳)

(連絡先) Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ: <https://living-field.org/>

(献金振込先) 楽天銀行 ノエル支店 (支店番号 246)

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

